

新・西家鼎談 第219回

日時；2019年9月22日 日曜日 13:00～20:30

会場；横浜市開港記念会館 2階9号室

〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6番地

■ 特集 スカイライン GTR 50周年

第1部： 13:30～17:00

講師： 久保田洋史 さん

テーマ： GTR でレースを走って

— スカイライン GTR がレースを闘ったのは 1969 年秋から 1972 年の秋までのことですが、その間数多くの勝利を重ね、後々まで語り継がれるような名勝負を生み出しました。そうした GTR のレースの主役はワークスチームでありましたが、一方でプライベートチームの活躍も注目すべきものが有りました。時にはワークスチームの前を走って優れた成績を残したり、耐久レースではしばしば総合優勝を目指す位置まで健闘して純レーシングマシンの心胆を寒からしめたりしたものです。

そうしたプライベート GTR の中でもひととき優れた実績を残したのが、PMC.S に所属していた久保田洋史さんでした。久保田さんの GTR でのレースは4ドアと2ドア HT の時期に分かれますが、特に白いボディに赤いストライプを描いたハードトップの時代は、しばしばワークスチームを脅かしスカイライン GTR50 勝のうちの少なからぬ部分を担いました。また久保田さんはいくつもの勝利を記録しただけではなく、車を壊さなかったことと、雨の中での目の覚めるような速さで記憶されるドライバーでもありました。

今回はその久保田さんが“どこからレースの世界に入ったのか”と言う事から始めて GTR との2年余りをたっぷり語っていただきます。

尚、司会は内田幸輝さんをお願いし久保田さんのチーフメカであった青木輝久さんにもコメント頂きます。

第2部： 17:30~19:00

講師： 青木輝久 さん

テーマ： GTR のレースを支えて

ー レースの用意で富士スピードウェイに行った時、青木さんが最初に行くことは百葉箱へ行ってその日の気温、気圧、湿度などをノートにメモする事だったそうです。当時青木さんの上司であった木村敏郎さんによると、その青木さんのノートには毎回のレースの日の気象データが細かくびっしりと書き込まれていたという事です。この熱意と研究心が青木さんをプリンススポーツコーナーの中で随一のメカニックに押し上げ、久保田さんから絶大な信頼を得ることに繋がったのです。現在でもスカイライン GTR のスペシャリストとしてプラスワン・アオキを主宰する青木さんの貴重な当時の話を。

第3部： 19:15~20:30

講師： 荒川幸隆 さん

テーマ： 座間の GTR と R380、そのレストア

ー 日産ヘリテージ・コレクションには歴代のプリンス／日産のレーシング・モデルの所蔵があります。その中から今回は 1969 年 JAF グランプリにデビューした篠原選手のスカイライン4ドア GTR (PGC10、リプロダクション) と 1966 年第3回日本グランプリに優勝した砂子選手のプリンス R380 のレストアについて解説をして頂きます。

会費： 980 円 シニア(65 歳以上)500 円

但し、複数の部に出席される場合には二つ目以降の部には割引があります。

詳しくは当日受付に表示しますのでご参照ください。

世話役： 三重宗久